

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年11月7日

予報期間：11月9日～12月8日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

- ・期間の前半は、全国的に気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。  
北・東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。  
東日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。  
西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

# 全般1か月予報

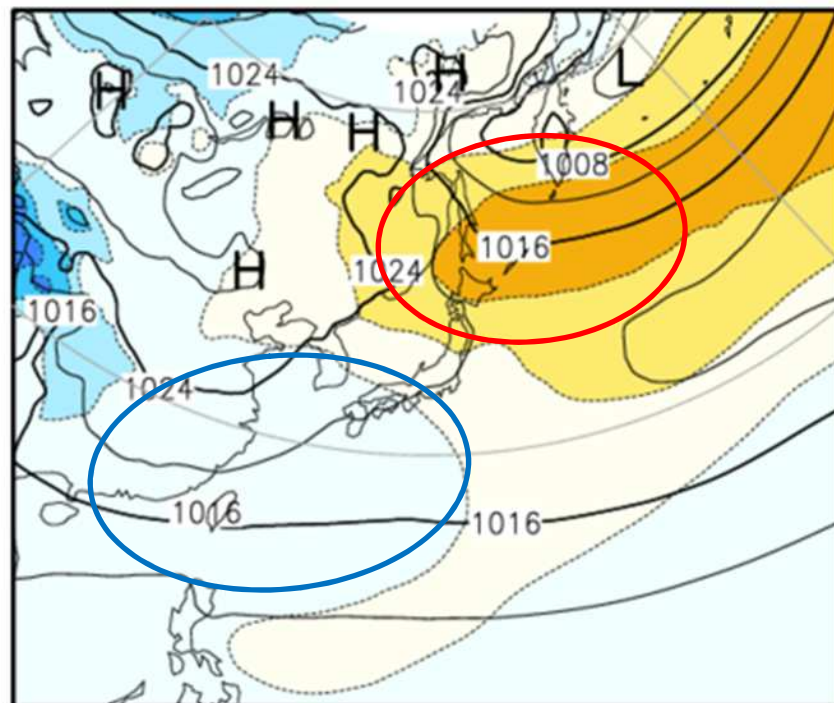
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:10:80	40:40:20	20:30:50	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
東日本	日本海側	10:10:80	40:40:20	20:40:40	
	太平洋側		10:40:50	50:40:10	
西日本	日本海側	10:10:80	30:30:40	30:40:30	
	太平洋側		20:30:50	50:30:20	
沖縄・奄美		10:10:80	20:40:40	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:10:80	20:30:50
東日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
西日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:30:60

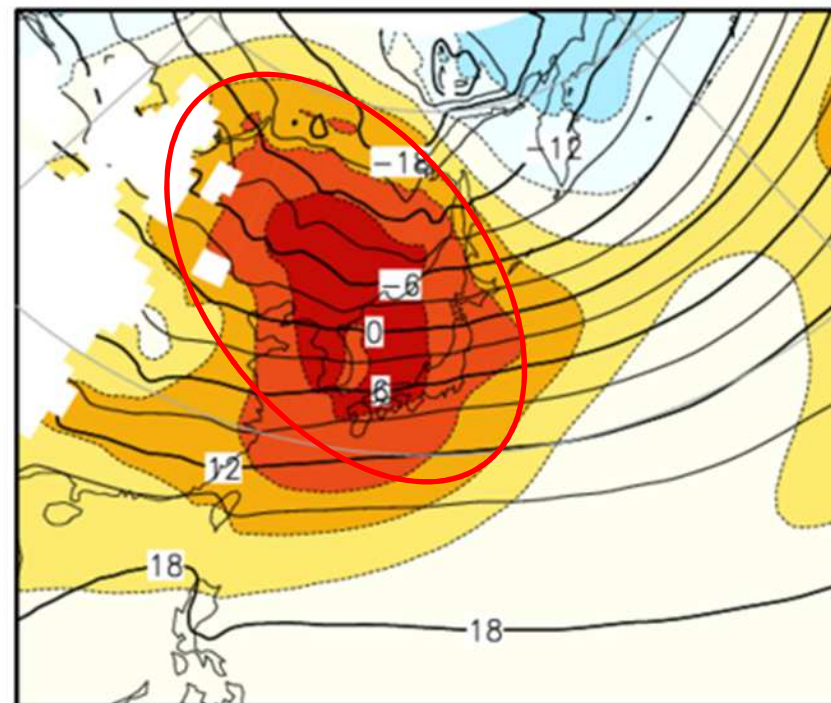
## 全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、寒気の影響を受けにくいため全国的に高いでしょう。期間の前半は、気温が全国的にかなり高くなる見込みです。
- ・寒気の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は、北・東日本日本海側では平年並か少ないでしょう。日照時間は北日本日本海側では多く、東日本日本海側では平年並か多いでしょう。
- ・低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東・西日本太平洋側では多く、北日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年並か多いでしょう。日照時間は、東・西日本太平洋側では少なく、北日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。

## 海面気圧(1か月)

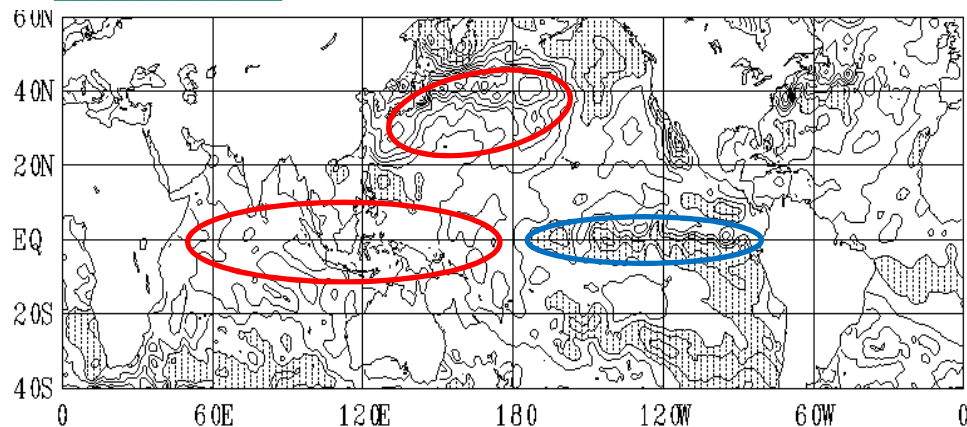


## 上空約1500mの気温(1か月)



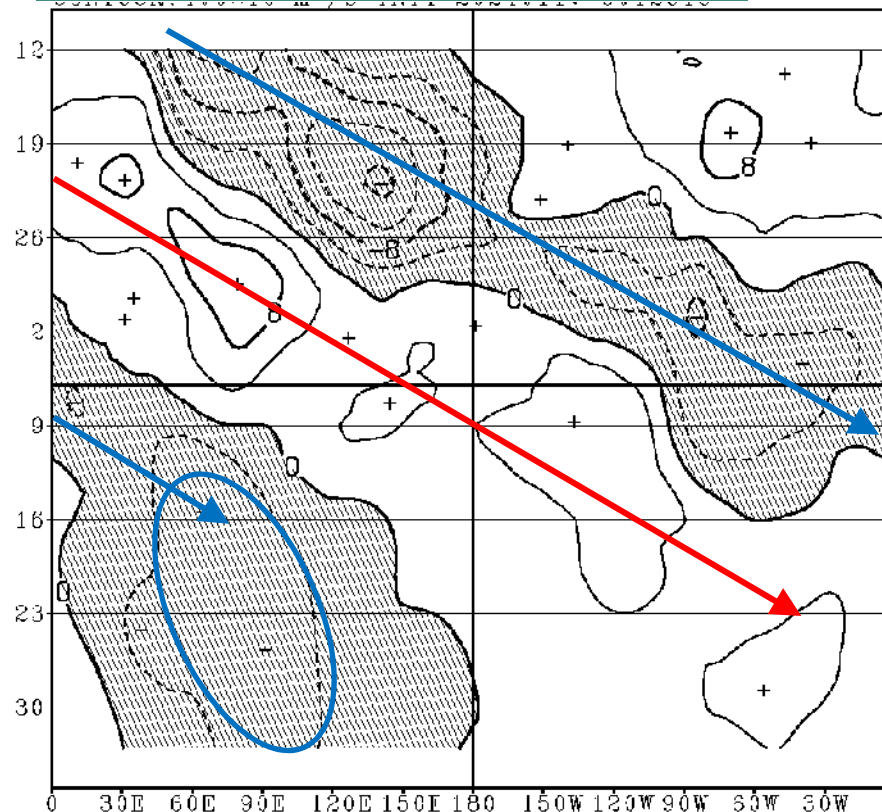
1か月平均の海面気圧(左図)は、北日本付近は平年に比べ気圧が高い一方、大陸では気圧が低く、西高東低の気圧配置が弱いため、太平洋側を中心に低気圧や湿った空気の影響を受けやすい見込みです。  
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、寒気の影響を受けにくいでしょう。

## SST偏差



・熱帯域では、インド洋から日付変更線付近にかけて正偏差、太平洋赤道域中部から東部にかけて負偏差。日本周辺海域や日本の東で正偏差。

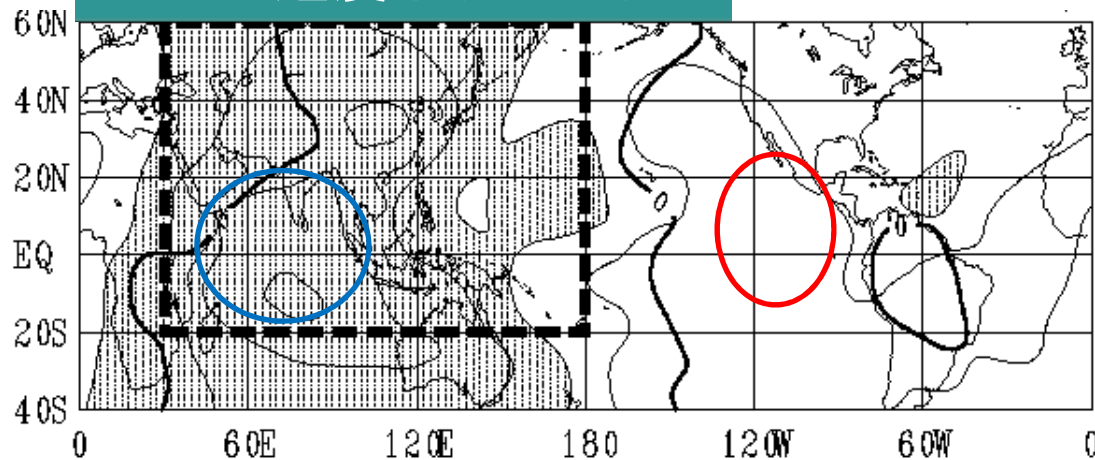
## 200hPa速度ポテンシャル偏差



・実況で大西洋付近にある上層発散域は東進し、期間内はインド洋で対流活発が持続。インド洋の高SST時に対流活発を持続させやすいというモデルの特性からより東進する可能性も考慮。

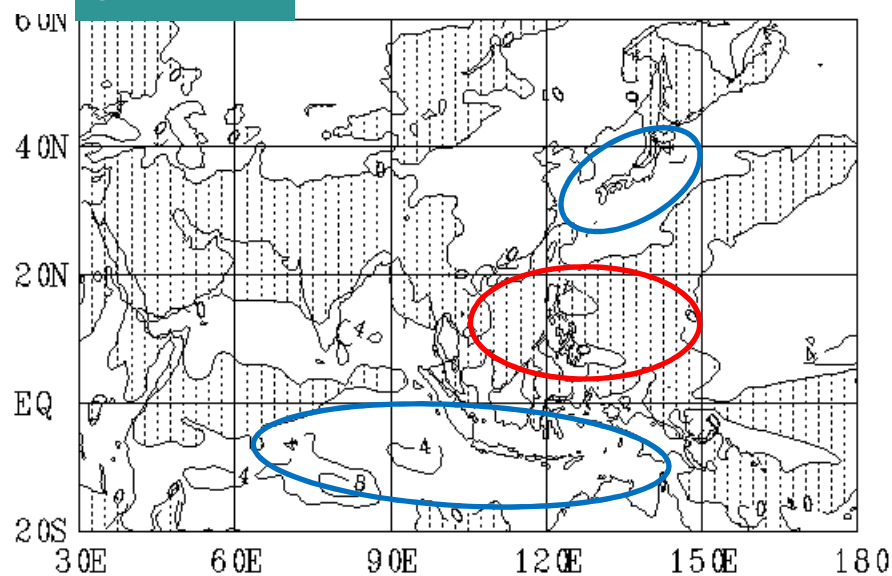


## 200hPa速度ポテンシャル



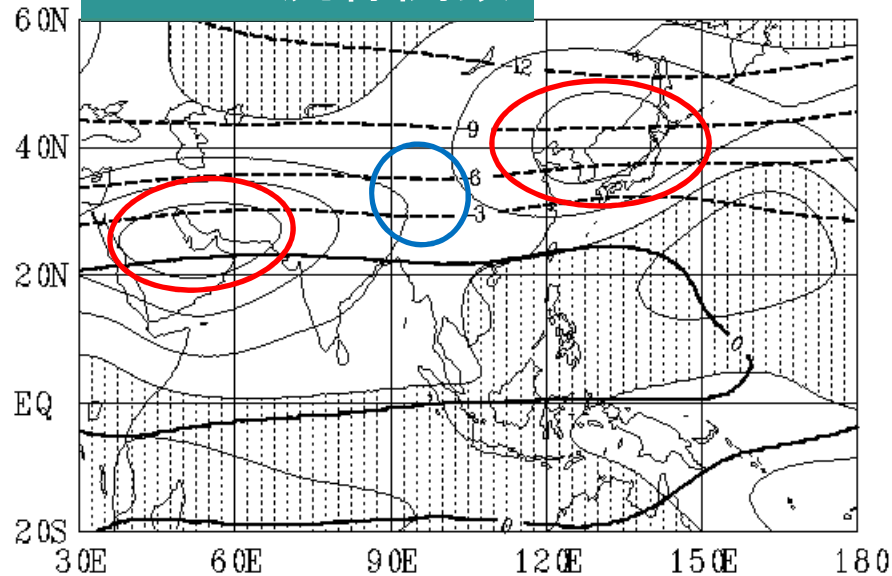
インド洋で上層発散偏差、太平洋東部で上層収束偏差。

## 降水量



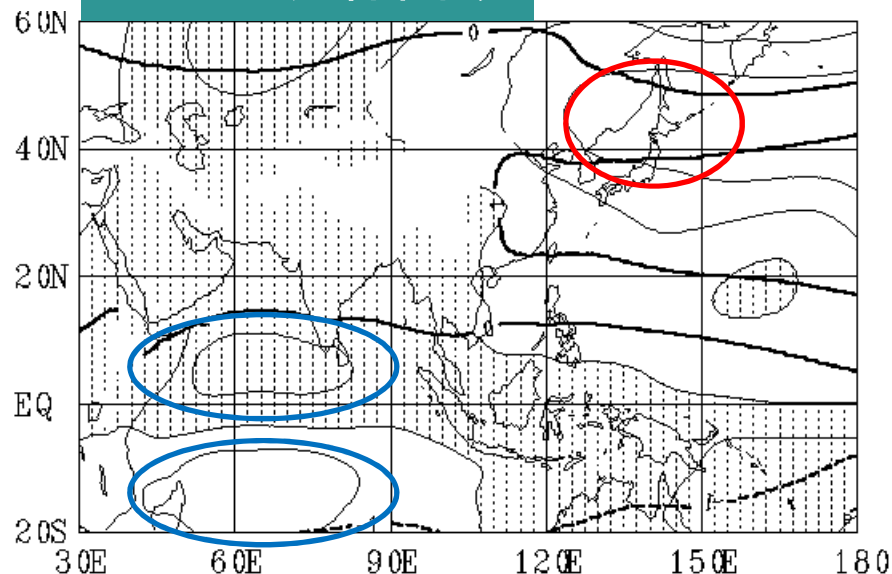
インド洋中部からインドネシア付近にかけて、日本周辺で多雨偏差。フィリピン付近で少雨偏差。

## 200hPa流線関数



中緯度帯には波列パターンが見られ、日本付近は高気圧性循環偏差で偏西風が平年に比べ北寄りを流れ、暖かい空気に覆われやすい。波列パターンの上流にあるアラビア半島付近の高気圧性循環偏差には、インド洋付近の対流活発の影響もあると考えられる。

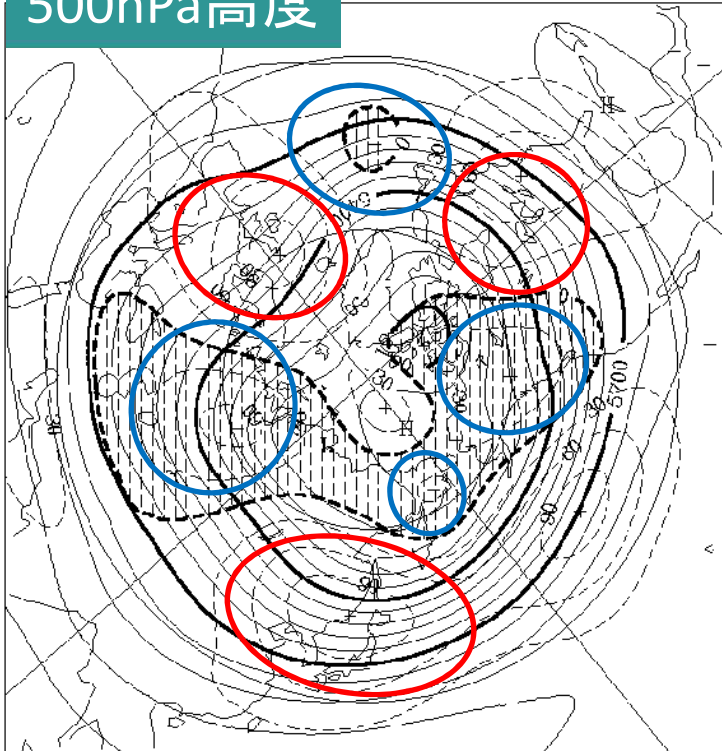
## 850hPa流線関数



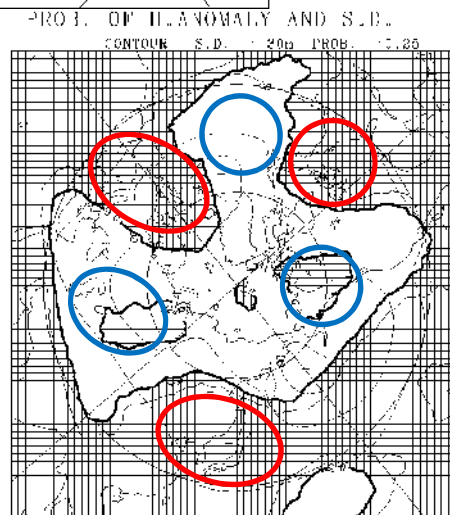
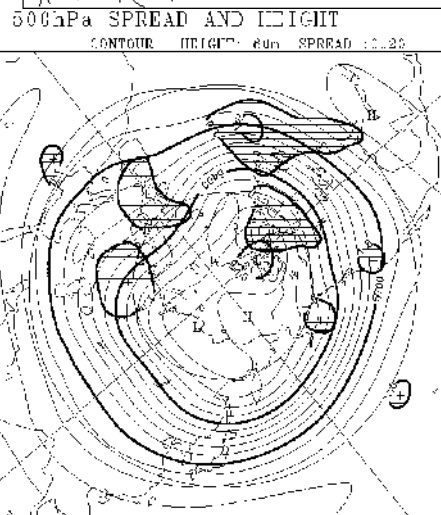
インド洋付近の対流活発の影響でインド洋では南北対の低気圧性循環偏差。北日本を中心に高気圧性循環偏差に覆われる。



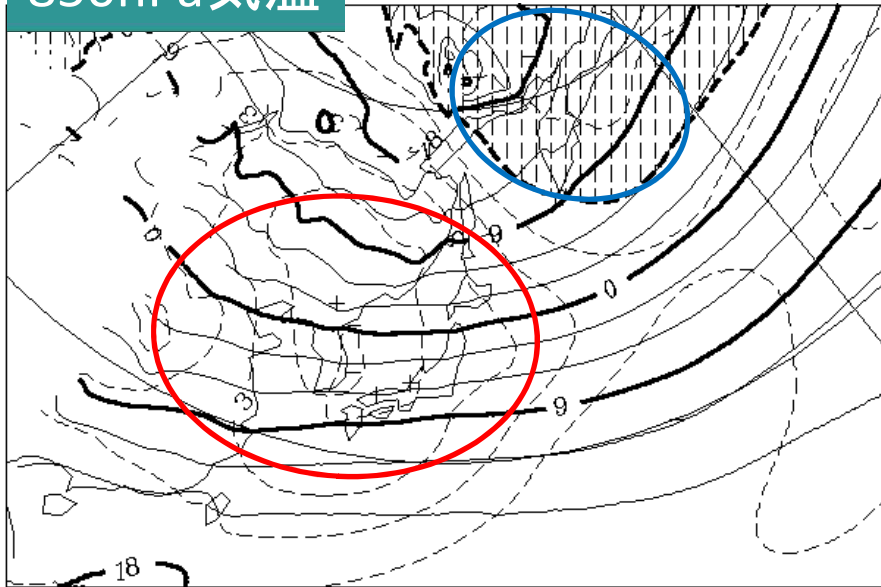
## 500hPa高度



北半球では波列パターンが明瞭で、日本付近は広く正偏差に覆われる。カムチャツカ半島付近には負偏差が見られる。高偏差確率の図においても同様のパターンとなっている。

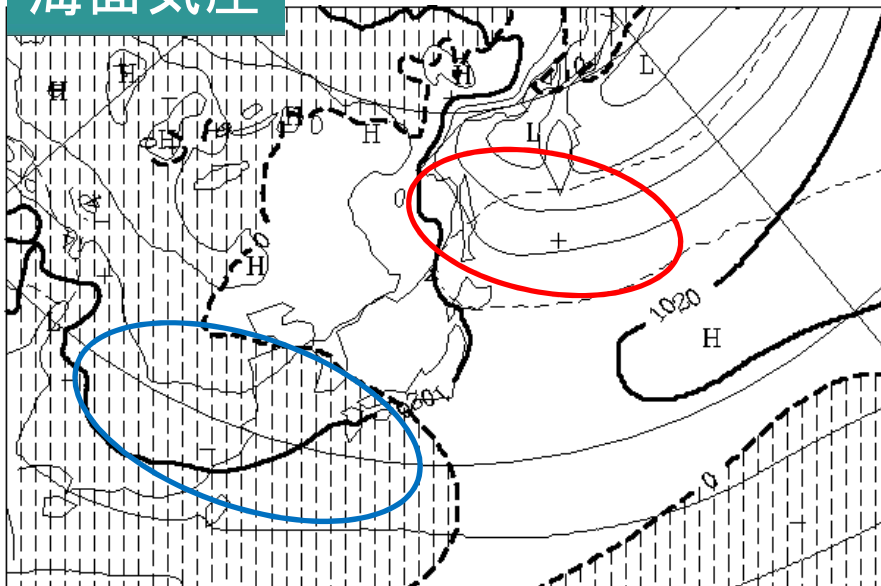


## 850hPa気温



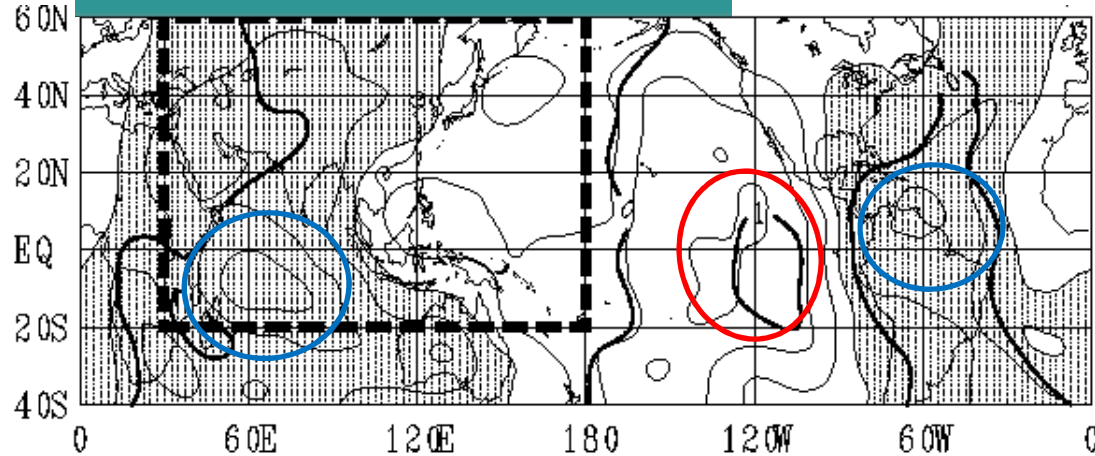
日本付近は広く高温偏差に覆われる。カムチャツカ半島付近には、500hPa高度の負偏差に対応する低温偏差域も見られ、北海道付近は一時的な寒気の影響を受ける可能性もある。

## 海面気圧



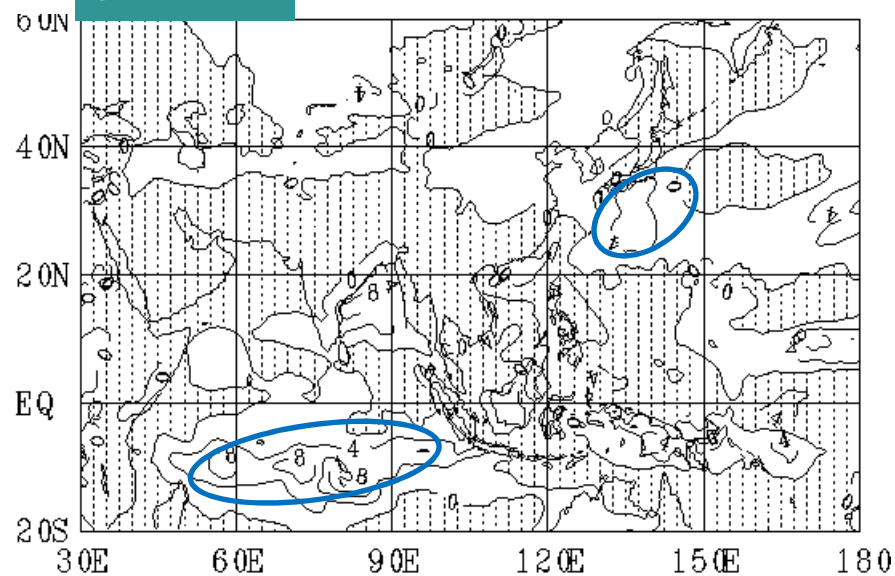
オホーツク海から千島の南にかけて高気圧偏差、大陸から西日本にかけては低気圧偏差に覆われ、日本付近は西高東低の気圧配置が弱く、太平洋側を中心に低気圧や湿った空気の影響を受けやすい見込み。

## 200hPa速度ポテンシャル



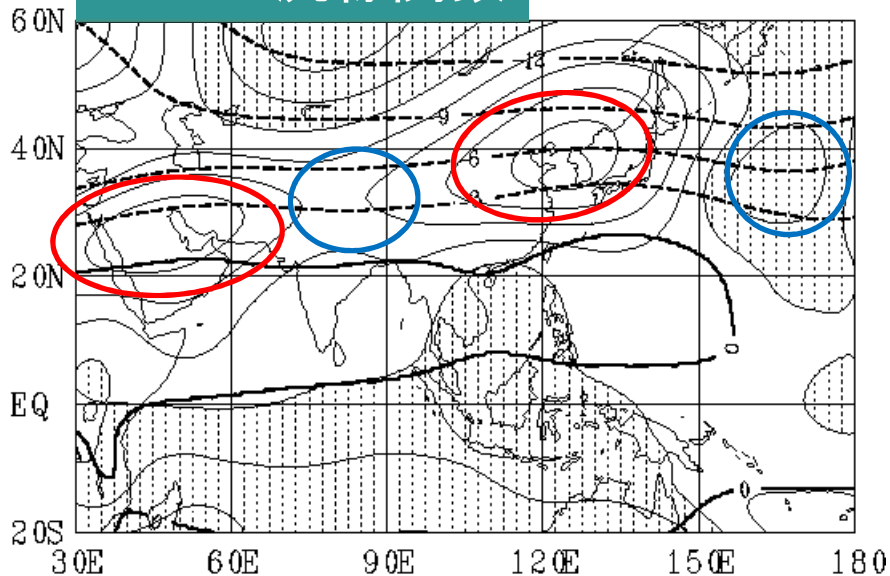
インド洋、南米付近で上層発散偏差、太平洋東部で上層収束偏差。

## 降水量



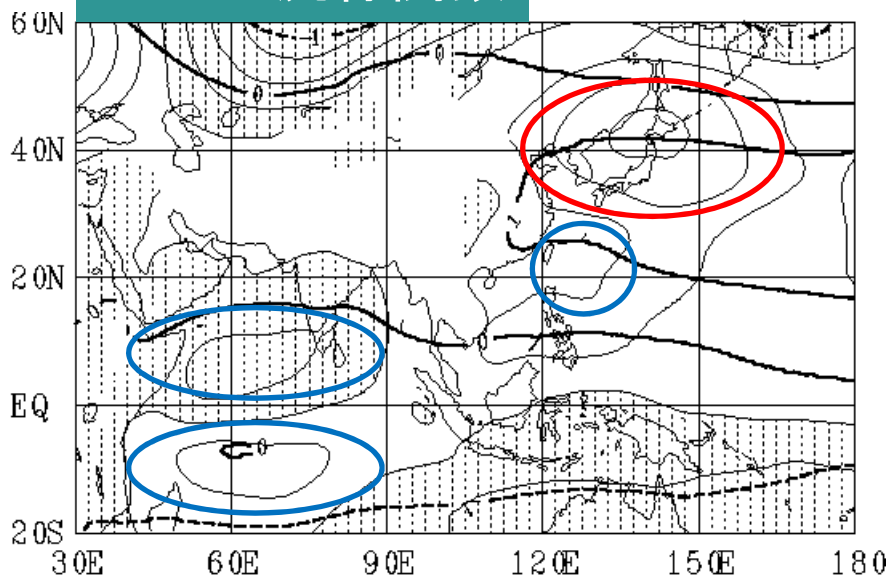
インド洋赤道域の南半球側で多雨偏差。日本の南にも多雨偏差域が見られる。

## 200hPa流線関数



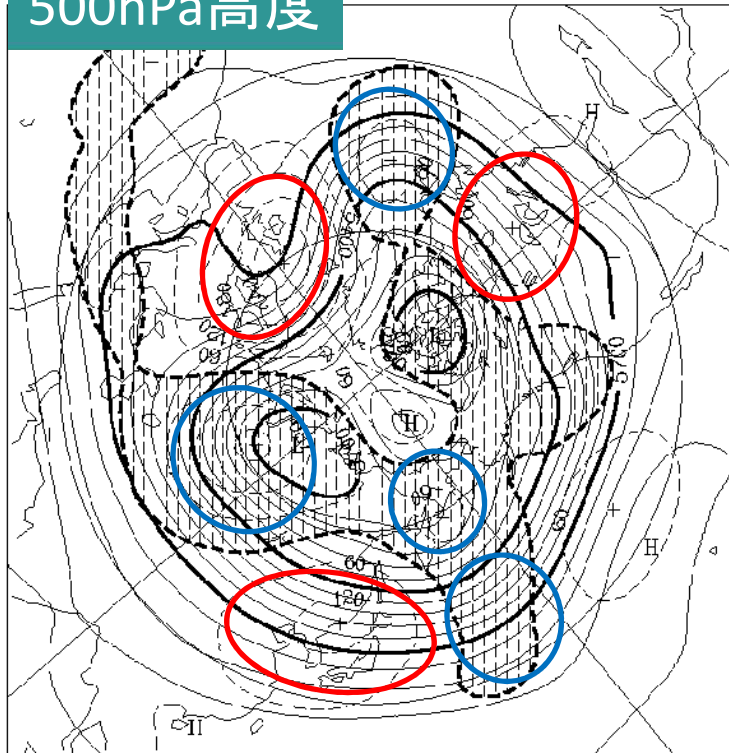
中緯度帯では波列パターンが見られ、華北から沿海州付近にかけて広く高気圧性循環偏差。波列パターンの上流にあるアラビア半島付近の高気圧性循環偏差にはインド洋の対流活発の影響もあると考えられる。

## 850hPa流線関数

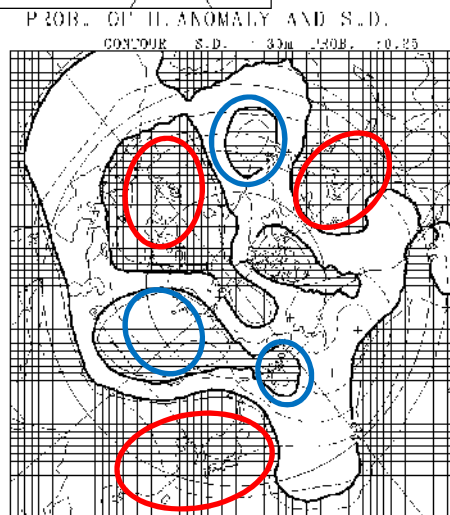
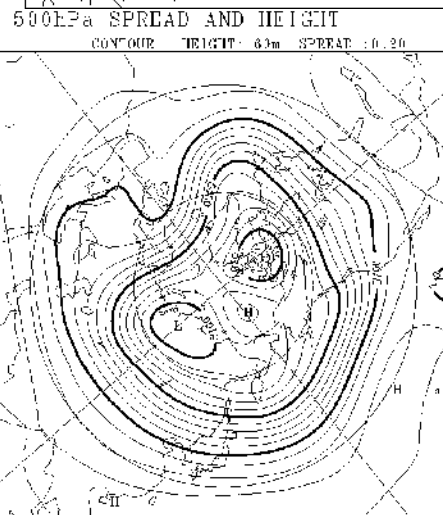


インド洋では南北対の低気圧性循環偏差。日本付近は北日本中心に高気圧性循環偏差に覆われる。フィリピンの北には相対的な低気圧性循環が見られ、沖縄・奄美は東寄りの湿った空の影響を受ける時期がある見込み。

## 500hPa高度

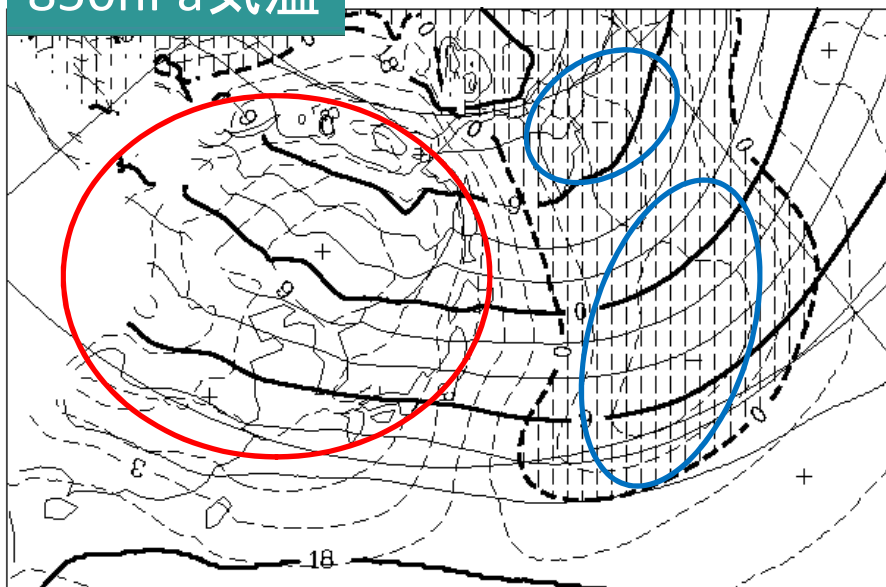


中緯度帯には波列パターンが見られ、日本付近は北日本中心に広く正偏差に覆われる。カムチャツカ半島付近には負偏差が見られる。高偏差確率でも同様のパターンとなっている。



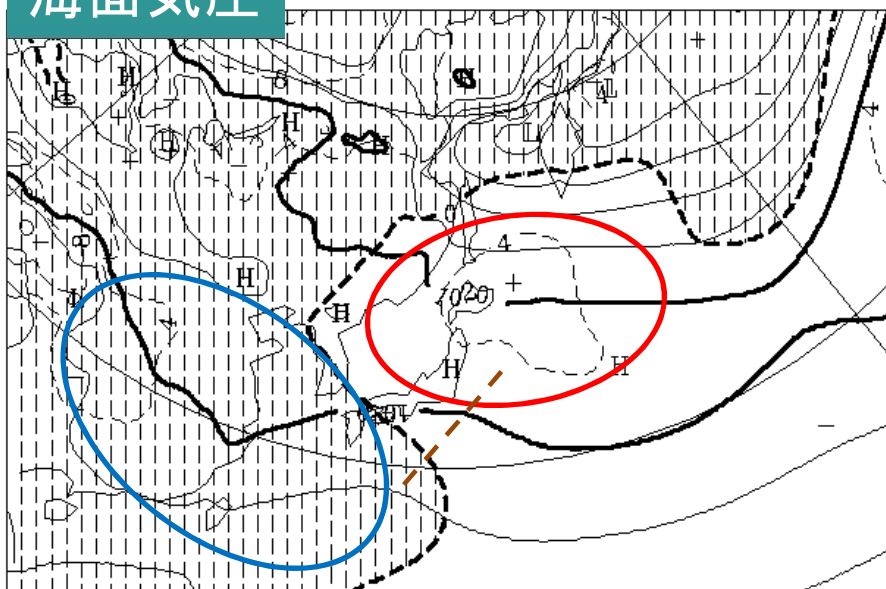


## 850hPa気温



日本付近は大陸から広がる高温偏差に覆われる。500hPa高度の負偏差に対応してカムチャツカ半島付近、日本の東には低温偏差も見られる。

## 海面気圧



大陸で低気圧偏差、北日本から日本の東にかけては高気圧偏差となり、西高東低の気圧配置は弱い。太平洋側には気圧の谷が見られ低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。



## 想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東・西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東日本太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

### <気温>

・北・東・西日本では、寒気の影響を受けにくいため高温で、かなり高くなる。

・沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすいため高温で、かなり高くなる。

### <天候>

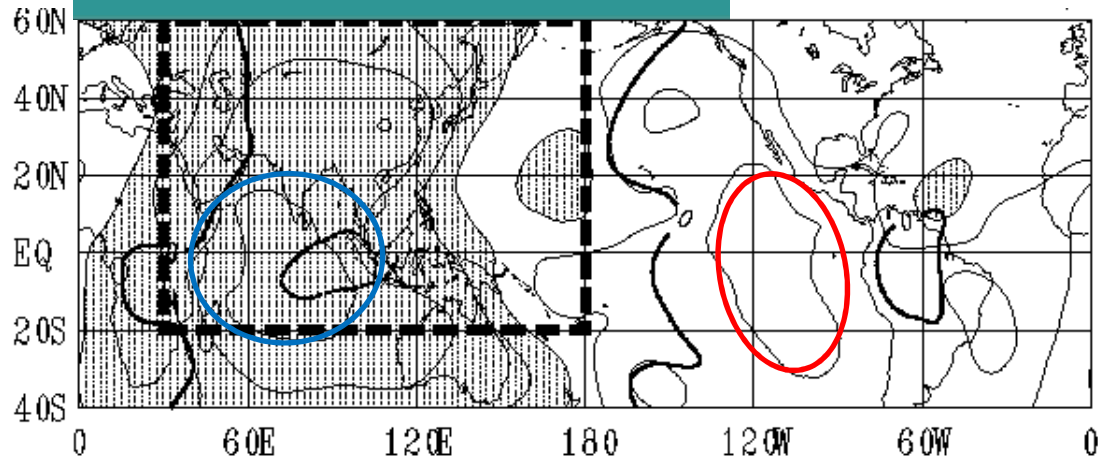
・高気圧に覆われる時期があるため、北・東日本日本海側では、少雨傾向・やや多照、北日本太平洋側では、やや少雨・やや多照。

・低気圧や前線の影響を受けやすいため、東・西日本太平洋側では、多雨傾向・寡照傾向。

・西日本日本海側では、並雨・並照。

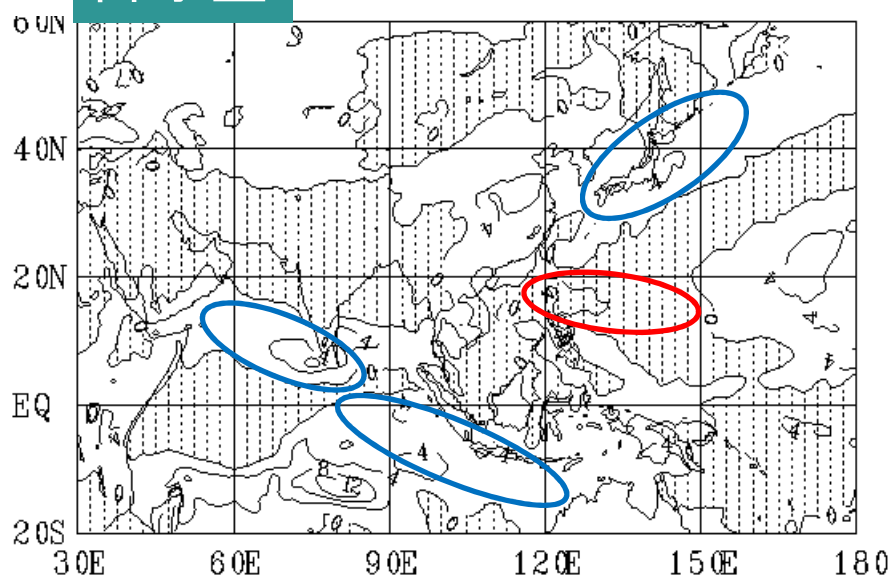
・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、多雨・並照。

## 200hPa速度ポテンシャル



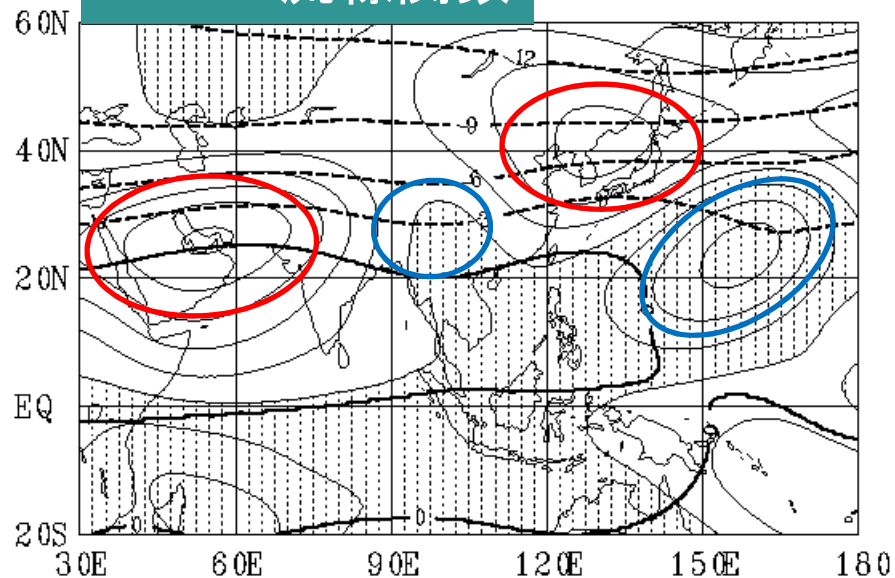
インド洋で上層発散偏差、太平洋東部で上層収束偏差。

## 降水量



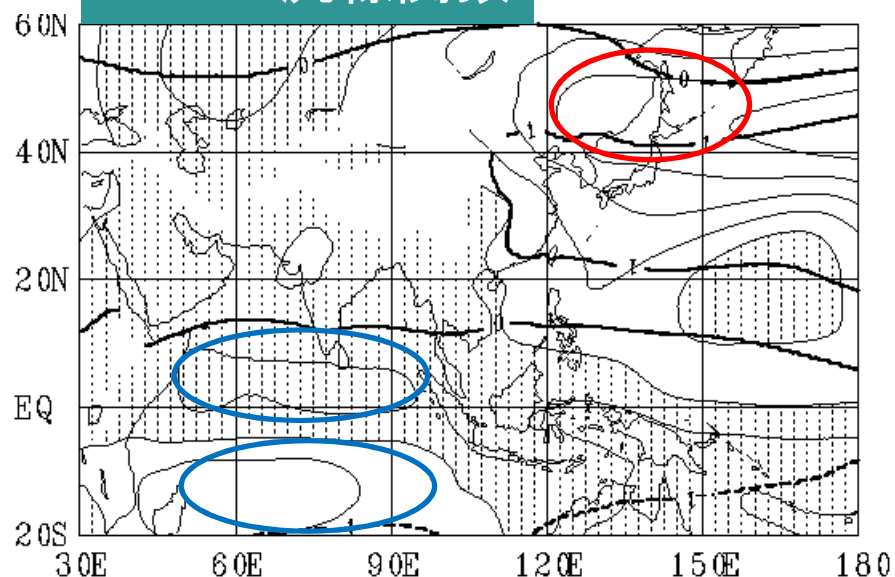
インド洋では多雨偏差、日本付近も多雨偏差が見られる。フィリピンの東では少雨偏差。

## 200hPa流線関数



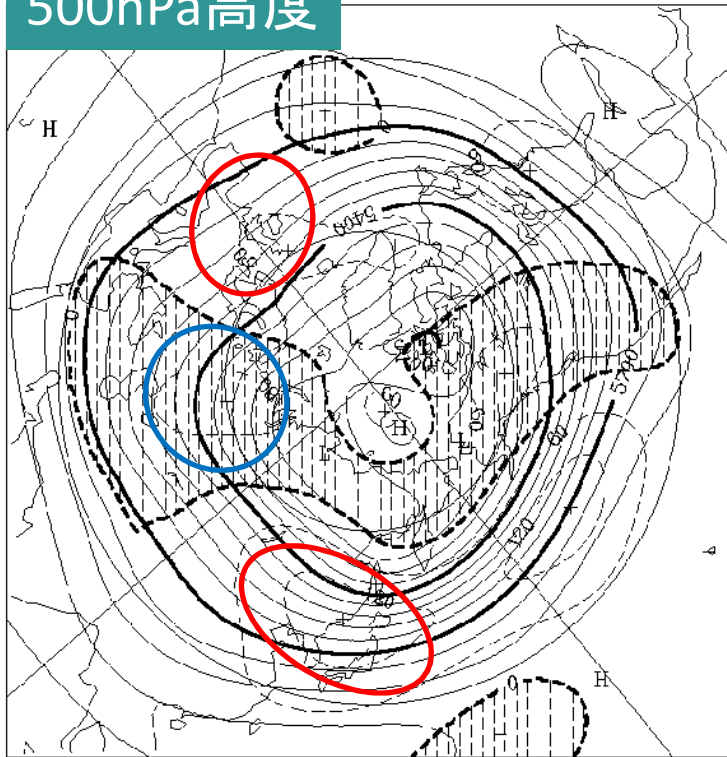
中緯度帯では波列パターンが見られ、日本付近は高気圧性循環偏差に覆われる。波列パターンの上流にあるアラビア海付近の高気圧性循環偏差にはインド洋の対流活発の影響もあると考えられる。

## 850hPa流線関数



インド洋では南北対の低気圧性循環偏差。日本付近は高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度



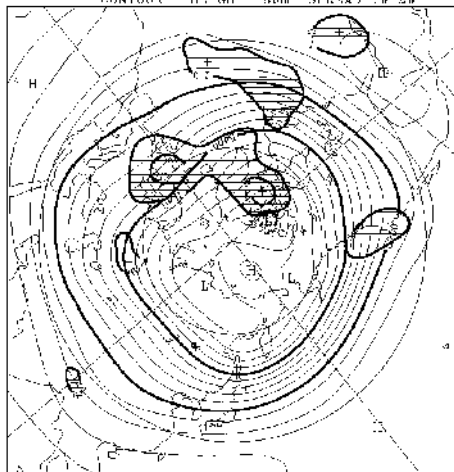
ユーラシア大陸北部には波列パターンが見られ、日本付近は広く正偏差に覆われる。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

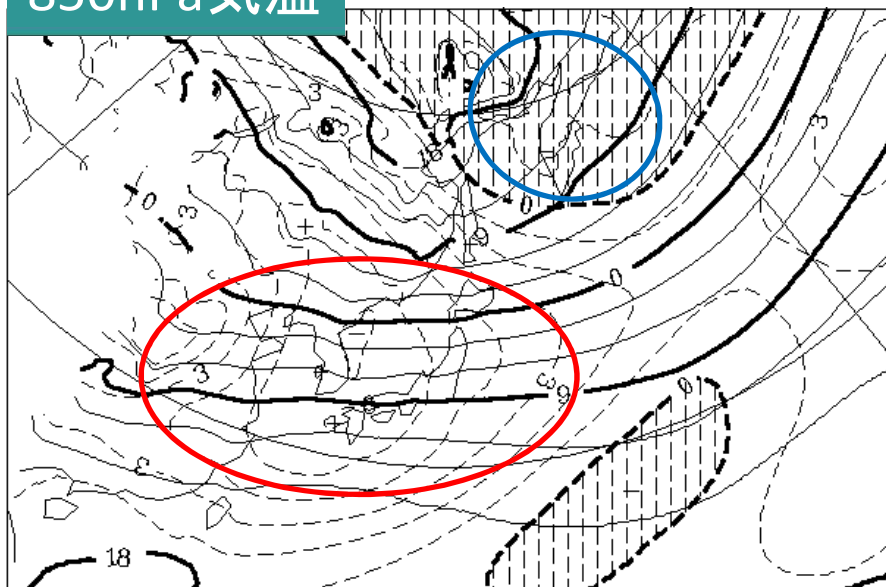
PROB. OF FLAKOM.A.Y AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 30m 2403 0.25

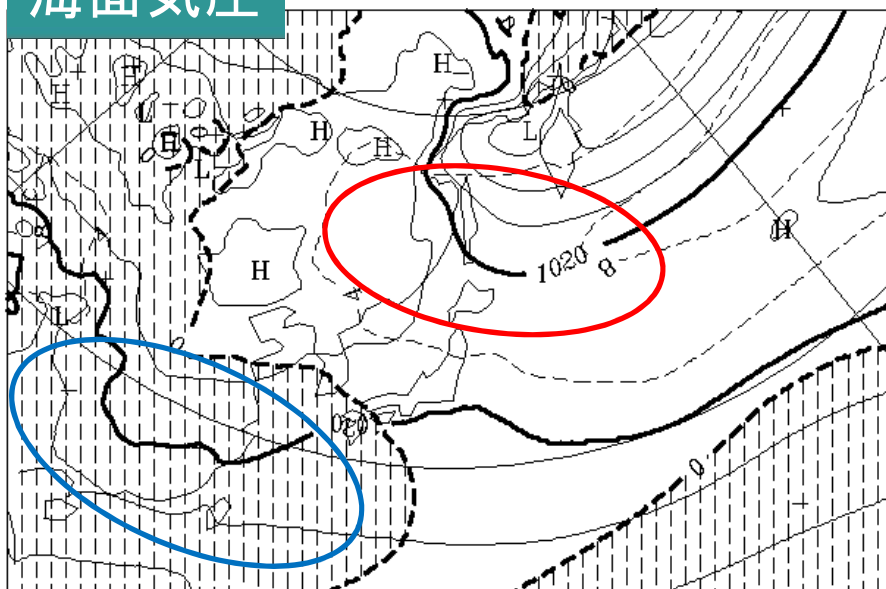


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われる。カムチャツカ半島付近には低温偏差域も見られる。

## 海面気圧



オホーツク海から千島の南にかけて高気圧偏差、東シナ海付近は低気圧偏差で西高東低の気圧配置が弱く、太平洋側を中心に、湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込み。



## 想定される天候

北日本日本海側では、西高東低の気圧配置が弱く、寒気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

北・東日本太平洋側では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

東日本日本海側では、西高東低の気圧配置が弱く、寒気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

### <気温>

・北・東・西日本では、寒気の影響を受けにくいいため高温で、かなり高くなる。

・沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすいため高温で、かなり高くなる。

### <天候>

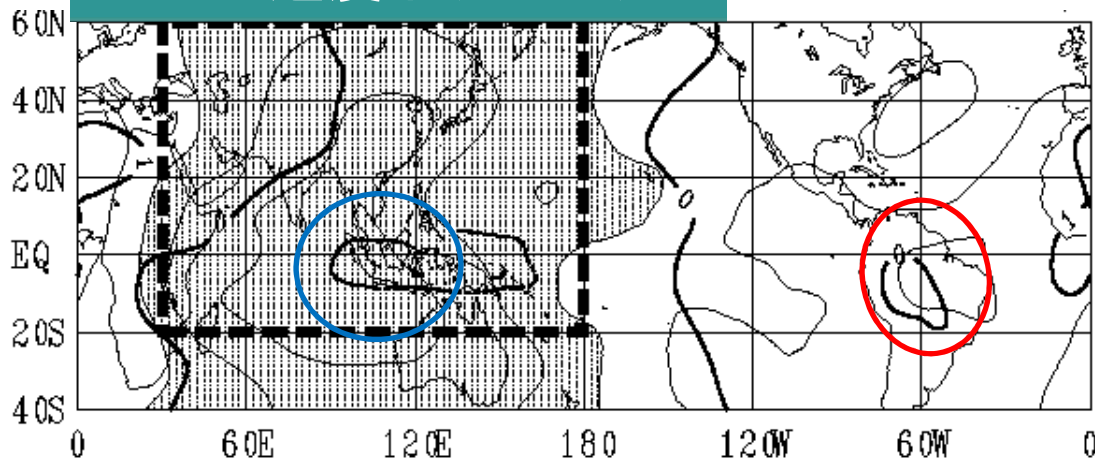
・西高東低の気圧配置が弱く、寒気の影響を受けにくいいため、北・東日本日本海側では、やや少雨・多照傾向。

・西高東低の気圧配置が弱く、湿った空気の影響を受けやすいため、北・東・西日本太平洋側では、多雨傾向・寡照傾向、西日本日本海側では、やや多雨・やや寡照。

・沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすい時期があるため、並雨・やや多照。

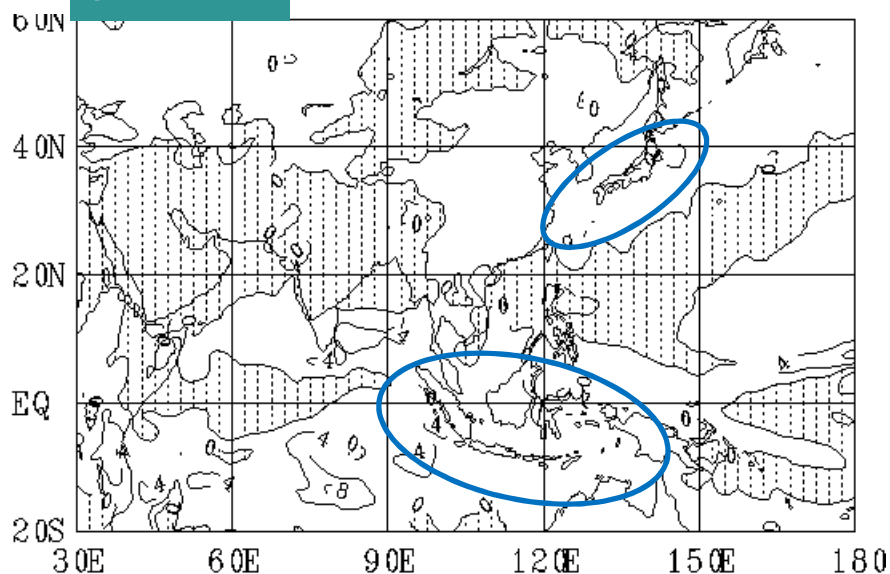


## 200hPa速度ポテンシャル



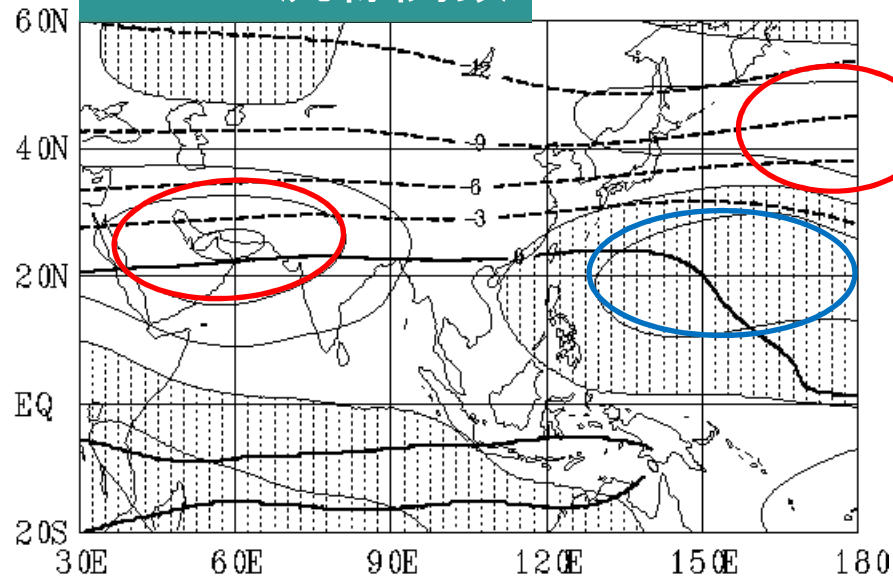
インド洋東部で上層発散偏差、南米付近で上層収束偏差。前述のインド洋の高SST時に対流活発を持続させやすいというモデルの特性から不確実性を考慮し、対流活発域が予測図よりも東寄りとなる可能性も考える。

## 降水量



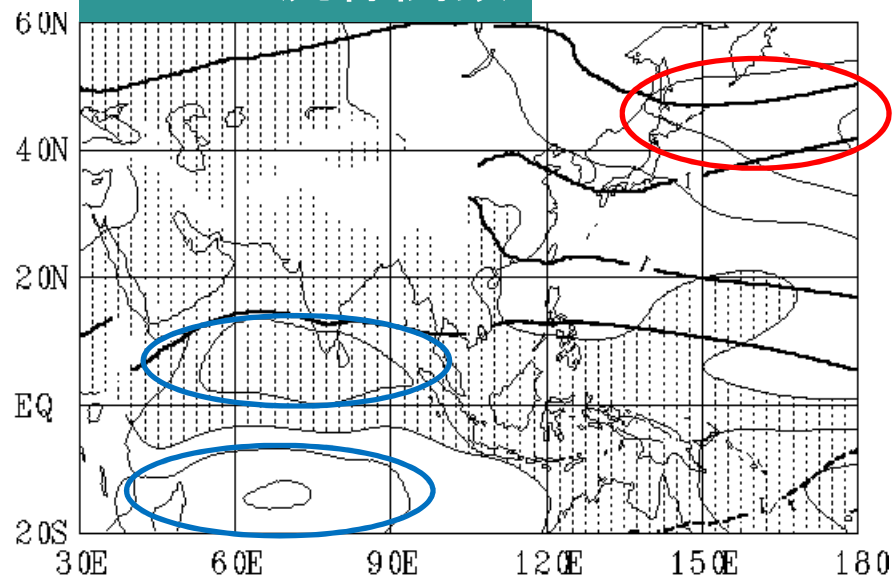
インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差、日本付近も多雨偏差が見られる。モデルの特性から、熱帯の多雨域の位置についてはある程度の不確実性があると考えられる。

## 200hPa流線関数



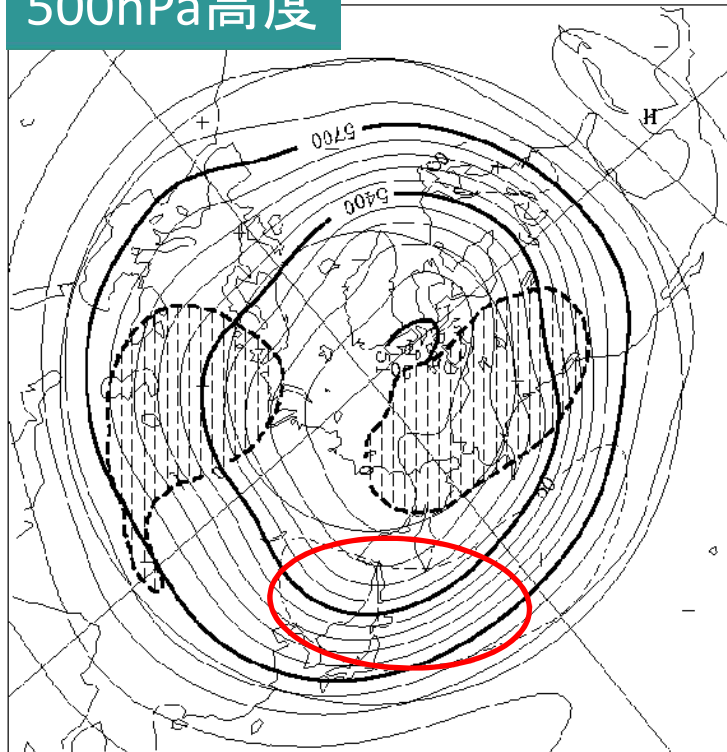
中東付近と日本の東で高気圧性循環偏差。日本の南東で低気圧性循環偏差。熱帯の対流活動の不確実性を考慮しこの傾向は割り引いて考える。

## 850hPa流線関数



インド洋では南北対の低気圧性循環偏差。北日本付近は千島の南付近に中心をもつ高気圧性循環偏差に覆われるが、熱帯の対流活動の不確実性を考慮しこの傾向は割り引いて考える。

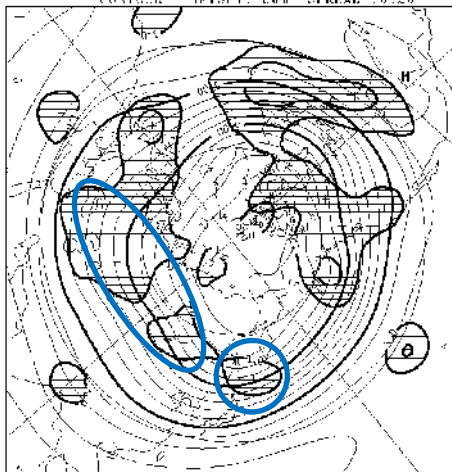
## 500hPa高度



日本付近は北日本を中心に広く正偏差に覆われる。  
高偏差確率等を考慮し、この正偏差のパターンは概ね採用するものの、ユーラシア付近や、日本の北でスプレッドの大きい領域が見られることからやや割り引いて考える。

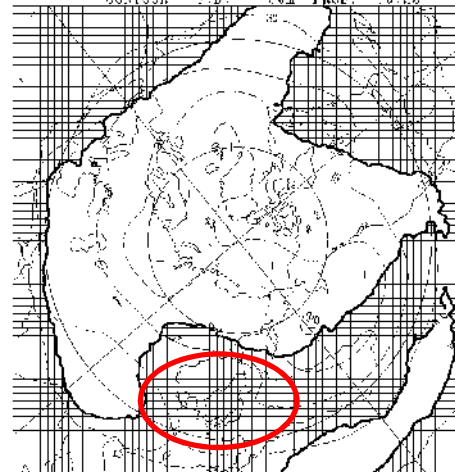
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

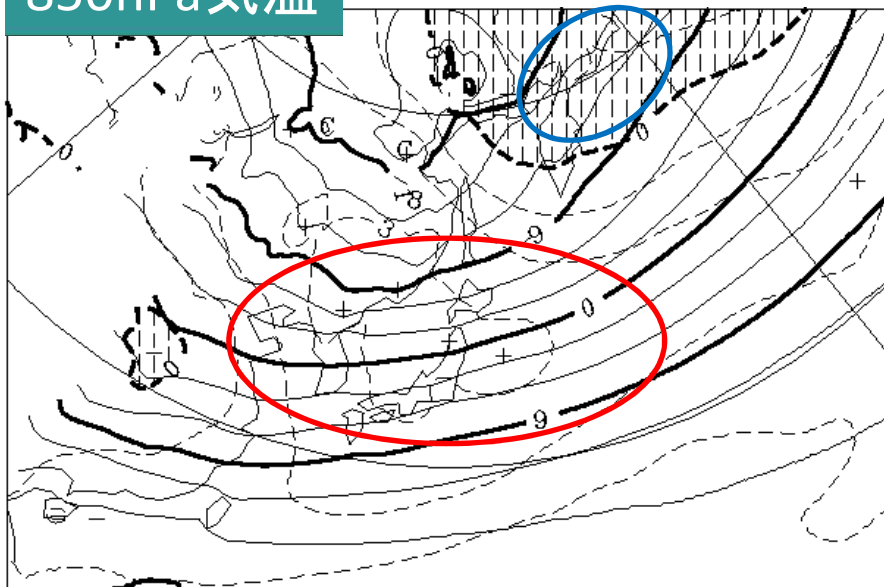


PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

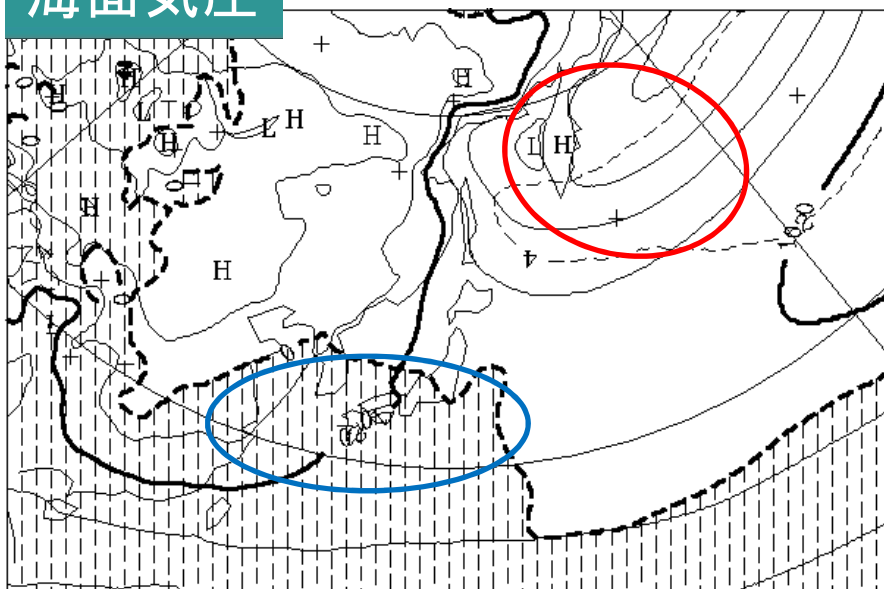


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われるが、カムチャツカ半島付近には低温偏差域も見られる。高温の傾向は採用するものの、前述の対流活動や500hPa高度の不確実性を考慮し、やや割り引いて考える。

## 海面気圧



オホーツク海付近に高気圧偏差、華中から本州付近にかけては低気圧偏差。西高東低の気圧配置が弱い傾向は採用するものの、前述の対流活動や500hPa高度の不確実性を考慮し、やや割り引いて考える。

## 想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。  
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
東・西日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

### <気温>

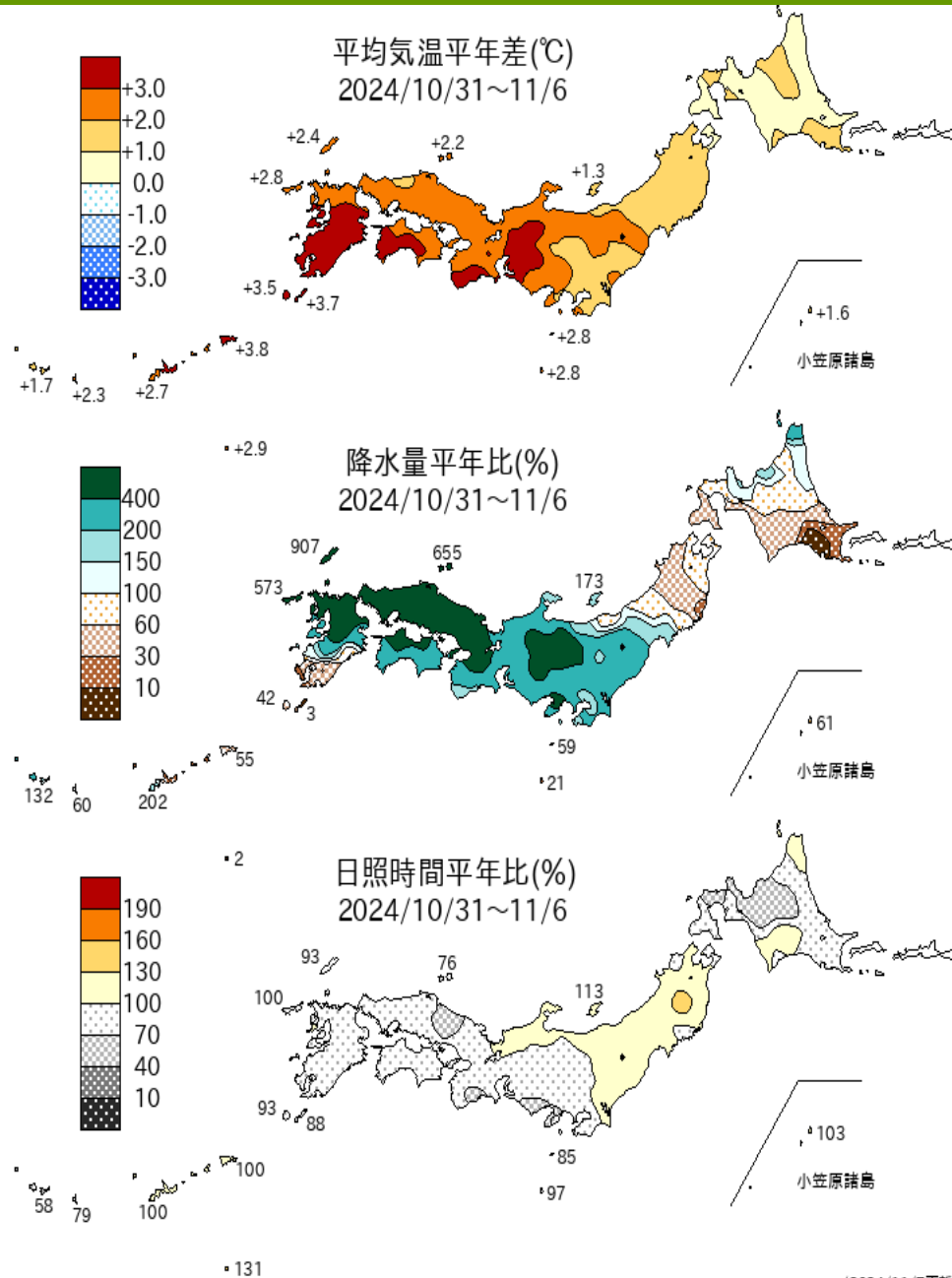
- ・北・東・西日本では、寒気の影響を受けにくいいため、高温。
- ・沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすいため、高温。

### <天候>

- ・西高東低の気圧配置が弱く、寒気の影響を受けにくい時期があるため、北・東日本日本海側では、やや少雨・やや多照。
- ・西高東低の気圧配置が弱く、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、北・東・西日本太平洋側では、やや多雨・やや寡照。
- ・西日本日本海側と沖縄・奄美では、並雨・並照。



# 最近1週間の天候経過



最近1週間(10月31日~11月6日)は、低気圧や前線、台風周辺の湿った空気の影響で、曇りや雨となった所が多く、11月2日には長崎県で線状降水帯が発生するなど、11月1日から2日にかけては、西日本を中心にこの時期としては記録的な大雨となった所もありました。気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすかったため高くなりました。